

P-30 ローズマリー精油(CINEOL)の*Candida albicans*への抗真菌活性

○松崎友祐¹、辻澤利行²、中村真理^{1,3}、西原達次⁴、柿木保明¹

¹九歯大・摂食機能リハ、²九歯大・健康管理学、³北九州八幡東病院、⁴九歯大・感染生物

*Candida albicans*による口腔カンジダ症が疑われる場合、一般に抗真菌剤が治療に用いられる。しかし、高齢者においては多剤服用によって併用が禁忌な症例や、抗真菌剤の味覚への不快感を訴える患者など、投与が難しい症例もある。我々は、抗真菌剤の代替物になり得るものとしてローズマリーから抽出された精油を用いて*C. albicans*への抗真菌活性を報告してきた。その結果、同じローズマリー種であっても、含有成分が異なるケモタイプによって抗真菌活性にも違いが見られる可能性が示された。今回、最も低濃度で抗真菌活性を示したCINEOLケモタイプについてTime kill assayを用いて検討した。

その結果、精油を2.0% (v/v)の濃度で用いた場合、2時間後に*C. albicans*の完全な発育阻害を確認し、殺真菌的に作用していることが明らかとなった。ローズマリーは、香辛料抽出物として食品添加物(既存添加物)の認可があり、使用濃度の基準は設けられていない。そのため、今回の実験結果の濃度で食品添加物として応用をしながら、抗真菌活性を期待できる可能性が示唆された。

P-31 口腔保健学科3年生と1年生の「社会人基礎力」診断結果

○園木一男¹、井上博雅¹、日高勝美¹、
高橋由希子²、千綿かおる²、柿木保明²

¹九歯大・口腔保健管理、²九歯大・口腔機能支援

口腔保健学科では、本学第2期中期計画に基づき、口腔保健活動の新たな担い手として幅広い就職先を開拓しつつ、就職率100%を目指して、就職支援体制の整備と入学時からの学生への就職支援を行っている。社会人基礎力は、経済産業省が定義する「職場や地域社会の中で多様な人々と仕事を行っていく上で必要な能力」とされ、その診断は、就職活動時の自己分析や、大学生活をこれからどのように過ごせば就業力が増すのか気付く資料となるが、今回、3年生と1年生の社会人基礎力の現状を把握することとした。方法は、学生個人がWebサイト上で3年生はsenior版、1年生はjunior版(いずれも選択問題60問、日経HR提供)を回答した。3年生の社会人基礎力の平均点は68.8(100点満点)で他校平均点64.1より高かった。特に、「チームで働く力」(本校平均点74.8vs他校平均点68.1)と「考え抜く力」(本校平均点69.6vs他校平均点64.8)が高かった。他校平均点より低かったのは「働きかけ力」であった。1年生の社会人基礎力は他校と同じレベルであったが、「課題発見力」が他校平均点より高く、「ストレスコントロール力」、「働きかけ力」が低かった。